

令和6年度 広島市教員等育成に関する協議会議事要旨

1 開催日時

令和6年12月20日（金） 10:00～11:30

2 開催場所

広島市役所北庁舎 3階 第2・3会議室

3 出席者

(1) 大学関係者・学校関係者・教育委員会

ト部 匡司 (広島市立大学 副理事)
梶田 英之 (比治山大学 教職指導センター 教授)
二宮 孝司 (広島都市学園大学 子ども教育学部 子ども教育学科 教授)
佐伯 育郎 (広島文教大学 教育学部 教育学科 教授)
高西 実 (広島文化学園大学 学芸学部 子ども学科 教授)
中村 充宏 (広島工業大学 教職課程センター長)
平本 哲嗣 (安田女子大学 教育学部教育学科 教授 教職センター長)
鶴田 一郎 (広島国際大学 健康科学部 医療栄養学科 教職教室 准教授)
西森 章子 (広島修道大学 人文学部 教育学科 教授)
細 恵子 (広島女学院大学 人間生活学部 児童教育学科 准教授)
向居 暁 (県立広島大学 地域創生学部 地域創生学科 教授)
岡田 幸子 (広島市立幼稚園長会 代表 (矢野幼稚園長))
花岡 潔 (広島市小学校長会 代表 (牛田小学校長))
村上 和敬 (広島市公立中学校長会 代表 (美鈴が丘中学校長))
合田 和広 (広島市立高等学校長会 代表 (美鈴が丘高等学校長))
西山 美香 (広島市立広島特別支援学校長)
木村 滋宏 (教育委員会事務局 教育次長)
石橋 正啓 (教育委員会事務局 総務部長)
宅見 雄二 (教育委員会事務局 学校教育部長)
星野 和敏 (教育委員会事務局 学校教育部 指導担当部長)
川口 潤 (教育センター 所長)
佐々木 悠 (欠席) (エリザベト音楽大学 教養・教職主事 准教授)
胤森 裕暢 (欠席) (広島経済大学 教養教育部 教授 教職課程委員長)
松浦 武人 (欠席) (広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授)

(2) 事務局

教育企画課長、教職員課長、健康教育課長、学校安全対策担当課長、指導第一課長、指導第二課長、教育センター次長

4 意見聴取及び協議（公開）

(1) 教員の資質能力の向上に関することについて

ア 養護教諭・栄養教諭としての資質の向上に関する指標（案）について

(2) 教員の養成に係る大学・学校・教育委員会の連携について

ア 休日の部活動の地域移行に係る外部人材の活用等

イ 大学生による学校支援活動の活動状況

ウ 広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験の実施状況

エ ひろしま未来教師セミナーの実施状況

オ 学校における働き方改革推進モデル校 学校公開

(3) その他

5 傍聴人の人数
0名

6 資料

- 資料1 養護教諭及び栄養教諭としての資質の向上に関する指標（案）について
- 資料2 休日の部活動の地域移行に係る外部人材の活用等について
- 資料3 令和6年度「大学生による学校支援活動」の活動状況について
- 資料4 令和7年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験の実施状況について
- 資料5 令和6年度ひろしま未来教師セミナーの実施状況について
- 資料6 学校における働き方改革推進モデル校 学校公開

7 議事内容（要旨のみ）

出席者の主な発言は以下のとおり。

【○：構成員（大学関係者・学校関係者） ●：構成員（教育委員会・事務局職員）】

(1) 教員の資質能力の向上に関すること

ア 養護教諭・栄養教諭としての資質の向上に関する指標（案）について
資料1に基づき、事務局から説明。

○ 指標については、よく考えて練っていただいているので、振り返ることができ、校長も育成の視点で取り組める。現在、教育センターにおいて特別支援教育の部屋や英語ルーム等、モデル化したものを見せてくれているが、モデルとなる教員像についても早期に示していただきたい。特に、栄養教諭、養護教諭は一人役ということもあり、教育センターの研修等で取り組んでいただけるとありがたい。

● 現在、教員の構成年齢が若年化し、経験年数の少ない教員が増えている。その中で、教育センターでは、モデル化、可視化したものを提供することは、教員にとって有意義であるという考え方のもと、モデルルームの設置などを進めている。先ほどの提案に関して、現在資料にて示した研修計画に加え、ミニ研修を計画している。これは、教育センターに通う時間の確保が難しいことから、放課後の短い時間を使いオンラインで複数回実施しようというものである。これについては1月から試行し、来年度、本格実施したいと考えている。また、モデルルームを活用して土曜日にもセミナーを実施している。専門的な知識をもって授業を実践している先生方を講師として招へいし、自由参加で一緒に授業について考えていく取組を進めているところである。こうした取組をさらに充実させていきながら、教員が理想とする姿、広島市教育委員会が求める教員像について、明確にしていきたいと考えている。

(2) 教員の養成に係る大学・学校・教育委員会の連携について

ア 休日の部活動の地域移行に係る外部人材の活用等
イ 大学生による学校支援活動の活動状況

資料2、3に基づき、事務局から説明。

○ 学校支援ボランティアに関して、本校（大学）からは小学校、中学校の両方に行っており、経験させていただきありがたいと思っている。先日中学校に行った学生が、すごく丁寧に指導していただいたと非常に喜んでいて。一方で、物理的・時間的に制約のかかる学生が通いやすい中学校を探そうとしたものの対象校かどうか分からず、直接校長先生に電話して、受けていただけたということがあった。学校によって人数の制限があると

ころもあれば、学生の受け入れ経験が少なく、何をさせたらよいか分からないという学校もある様子。教育委員会が間にたって情報共有をしていただければ、もう少し実施率が上がるのではないかと思う。長期間で学校を見ることができるとも、教員を目指す学生にとってもプラスになり、有効な活動だと思う。

- 本校（小学校）には、本日も3大学から5人の学生が学校支援活動に参加してくれている。この活動は、学校側も育成の視点で学生へ何ができるかを考えており、WIN-WINの関係だと思っている。本校の教員も最初は抵抗感を持っていたようだが、ひたむきな学生の姿を見て、どんどん意識が変わってきた。校長会にも、観察授業を見せるなどして、学生を育てていくよう働きかけようと思う。ぜひ参加する学生を増やしたいと思うので、機会があれば、各大学に助けていただきたいと思う。
- 来年教育実習に来る予定の学生の方を受け入れることとなり、前もって学校や生徒の様子を知ることができたことがよかった。WIN-WINの関係になったのでは。今後もぜひ協力していただけたらと思う。本校（中学校）で学生に支援していただいていることは、授業の補助や資料の整理である。他校では、給食の配膳支援をしていただいているところもあるようなので、様々なことを助けていただけたらと思う。
- 中学校の学校支援活動の募集は、支援活動が必要であれば中学校に申し込んでもらっているという状況。中学校の校長先生方は、どのような内容で支援してもらえばよいか悩むこともあると思われるため、支援の活動を広げていけるよう呼び掛けていきたい。
- ある校長先生からは、どのような学生が来るか分からず心配という声を聞いたことがある。本校（大学）での支援活動に参加する学生は、面接にて意思を確認し、一定の水準に達した学生を送り出しており、相手側の学校の下承がなければダメだと学生に伝えている。校長先生も不安を感じていると思うので、大学側がお示しできるものがあればお伝えする。
- 受ける側も派遣していただく側も安心して行えるように、事務局でも検討したい。
- 部活動の外部人材の活用に関して、休日に部活をしなければならないのか疑問に思う。どのスポーツも本来的には休まなければならないのに、日本の部活は休まない。他県では、休日は部活をしない、何時までに限る、その上で成果を出すように、というような取組をしているところもある。現状を見直す大きな動きが必要ではないか。もちろん、休日の引率について、休日しか試合ができないということもあるとは思いますが、教育委員会として「日曜日の部活はやめましょう」としてはどうかと思うがどうか。
- 休養日のことになると思うが、部活動のガイドライン等があり、原則、週に1日は休養日を取るように示している。土日に絶対休むというところもあれば、平日で1日休養日を取っているところもある。今は、毎日ずっと部活動をしているという状況ではない。
- 1日では少ない。何のために部活をやっているのか根本的に考え直す作業が必要だと思う。2日、3日休んでも全然構わないと思う。その際に、子どもたちに「家で何をしておかなければいけないかな」と考えさせる方が教育として望ましいのではないかと思

う。それらを解決してから、休日の部活の地域移行を頼むのが筋ではないかと以前から思っている。もちろん、協力はしたいと思っているが、意識を大きく変えていかなければならないのではないかと思う。

- 国内でも、体験型の部活動に切り替えている自治体もあり、直近の話題では、神戸市が学校での部活動を終了すると公表した。広島市の場合は、まず休日の部活動の地域移行に取り組んでいる状況である。国の方向性としても、部活は地域に移行するというのが最終目標と示されているので、全体の動きを踏まえながら、この先検討していくことになるかと思う。
- 大学生の学校支援活動に関して、主な活動内容に「探究の補助」を加えることは制度上可能か。県立高校から、大学生を探究の時間に、生徒を指導するために派遣してほしいという希望があった。以前、学校支援活動で本校の学生が中学校に行った際、コピーとごみ捨てしかさせてもらえなかったということがあった。大学生が、児童生徒と一緒に探究に取り組むというような形の活動があると良い。美鈴が丘高校から、大学と連携できないかという話をいただいていることもあり、せっくなので話題に出した。学生がおもしろいと思えるような、小中高の総合などでコラボレーションして実施する活動を加えることができるかどうか、お聞きしたい。我々としてもぜひお手伝いしたいが、連携の在り方を相談する機会があればいいと思う。
- 本校（高等学校）では、来年から探究をメインに据えた学校教育活動を進めていくところで、大学生に来ていただき、ぜひ指導いただきたいという希望を強く持っている。ただ、交通費や補償の問題を踏まえて、授業、学習支援に探究が該当するか、どういうシステムで構築できるのかを事務局に検討していただき、どの範囲までかという点を少し明確に詰めていただけたらと思う。
- 学校支援活動の内容については、幅広に捉えていただきたい。御提案の件はカリキュラムに関連するため、個別に、広島市の大学と高校と一緒にカリキュラムを作っていくという方法もあるかと思う。もちろん、学校支援活動の中でやっていただいてもよいが、無理にあてはめることはしなくてもよいと思う。

ウ 広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験の実施状況

エ ひろしま未来教師セミナーの実施状況

オ 学校における働き方改革推進モデル校 学校公開

資料4、5、6に基づき、事務局から説明。

- 来年度の大学3年生等チャレンジ受験の中で、今年度はなかった栄養教諭の枠はあるのか聞きたい。
- 来年度のことについては決定していないため、現時点でお伝えできることはない。
- 教育委員会の働き方改革の取組では、教科担任制、スクールサポートスタッフ、学習サポーターなどの様々な施策により、働きがいのある学校づくりのために支援してもらっており、それに基づいて校長も取組を進めている。教職員の労働環境がブラックである

というイメージを払拭したいという思いがあり、教育委員会も「働き方改革」でなく、「働きがいのある学校教育」など、言葉のイメージチェンジをしていかなければならないのではないかと考えている。

- 今回、ひろしま未来教師セミナーで本校（特別支援学校）に来て見学してもらい、校長が直接話をする機会をいただいた。本校は特別支援学校であるため、どのような教育がなされているか、どういった子どもたちが学んでいるか、分かってもらにくい部分があると思っている。介護等体験で年間300人程度、教育実習で年間15人程度受けさせていただいているが、今回、未来教師セミナーで教員になりたいという人が来てくれ、直接話をする、目が輝いた。このような未来につながる取組は大事だと感じ、引き続きこういった機会は続けていただけたらと思う。
- 教師として働く魅力を伝えられたらと思うし、離職率を減少させるには、みなさんが働いて楽しいと思えることが大きな要素だと思うので、働き方改革を進めながら、働きがいをもって働いてもらえる教師の育成にも取り組んでいきたいと思う。

(3) 全体を通じた質問・意見等

- 教員採用試験において、早期化・複線化が言われていると思う。例えば、北九州市では、複数の免許状をもっていれば一次試験が免除されるということがあがるが、今後採用試験において、そのような手立てなど、何か考えがあるか聞きたい。
- 採用試験は広島県と合同で実施しており、県と協議を進めているところであるため、この場でお伝えできることはない。一人でも多くの優秀な人材を確保したいという思いは県と同じであり、様々な工夫を今後とも考えていきたい。
- 自身が小学校の教員になりたいと思ったのは中学校2年生のとき。教員になりたいと思う子どもたちをどれだけ増やせるかが肝要だと思っている。やはり中・高の時期の子どもたちに、広島市が働き方改革を通して取り組んできたこと、変わってきたこと、なによりも教員はこんなにもすばらしいということ、やりがいがあること、生涯をかける職業であるということ、ここにいる行政、学校、大学で連携して伝えていくような事業が必要になってきているのではないかと感じる。
- このことは危機感を感じているところである。本校（小学校）には指導教諭が一人位置付けられており、他校の校長先生に、研修主事を本校に派遣し、指導教諭の授業を見て、モデルとなる教員の授業をもっと発信してほしいと思っており、小学校長会としても広げていきたい。
- 現在、市立高校と連携し、高校生のキャリア教育として教員の魅力などを伝える場を作っているところである。おっしゃられたとおり、早い段階で教員になりたいという思いをもつ人材を育てたいと思っており、これからは何ができるかしっかり考えていきたい。